



好学愛知 自律敬愛 質実剛健

# 鶴鳥イ言

## 勝負の時

教頭 福久 高文

将棋の世界で天才としての名声を恣にし、あの羽生善治が絶賛する「柁田幸三」が次のように言っています。  
「勝負というものはやってみないとわからないが悪い。さらに、勝つというのとは自分ではわからないが、負けるというのとはよくわかる。だから負けない工夫はできるが、それは冷静でないとできない。負けなければ、必ず勝ちが出てくるのである。」  
先ず、勝負というものはやってみないとわかりません。土俵に上がらなければ相撲には勝てない。どうせだめだと土俵下であきらめたものは永遠に今の自己を乗り越えて勝つことはできないのです。

次に、「負けまい」とすることは自分の意志でコントロールできる。それは自分に勝つということだからです。負けるものと奥歯をかみしめるときは、気持ちがあつと内側に向くはず。その気持ち強く持ってなくなつたとき、負けるなど予感できません。勝敗が自分からなるときは「負けなから」という確信を持って内面に関する事だからよく分かるのです。自分も実は同じようなことを孫子も言っています。  
「勝つべからざるは己にあるも、勝つべきは敵にあり。」  
敵が自分に勝てないという状態は自分の努力責任において実現可能であるが、自分が敵に勝てるかどうかは敵次第だということ。古来、人生における必勝法は「負けなから」ということにはあります。負けなからには勝ちにこだわらなければなりません。心を無の状態に全身に遍在させる必要があります。別の言い方をすれば、澄み切った心で戦いを純粋に楽しめる者が勝者となるのです。そのとき多分現実の勝ち負けよりもっと大事なものを手に入れるはず。高校三年間は勝負の時です。この三年間を本気で過ごした者こそ人生を爽り豊かなものにする事ができるでしょう。

「宝処は近き」にあり さらに一歩を進めよ」

## 12月の行事予定

12月		進路
1	金 卒業考査(2日目) 中間考査(1日目)	
2	土	
3	日	
4	月 卒業考査(3日目) 中間考査(2日目)	審議
5	火 卒業考査(4日目) 中間考査(3日目)	会
6	水	
7	木	
8	金 1・2年クリスマスマッチ 学校安全の日	
9	土 悠学講座 県民大学「湧勇」講座 スクールカウンセリング④	
10	日	
11	月 全校朝会	
12	火	
13	水 ダンス発表会 (7限)	
14	木	
15	金 1年郷土を知る学習 2年進路講演会 (7限)	
16	土 県民大学「湧勇」講座	
17	日	
18	月 学年朝会	
19	火	
20	水	
21	木 (45分×7限)	
22	金 45分×6限 (7限カット) 大掃除 (70分)	
23	土 天皇誕生日 悠学講座	
24	日	
25	月	冬季悠学講座
26	火	
27	水	
28	木 学年集会	センター
29	金	
30	土	
31	日	

## 心地よい日本語

十月三十日(金)、テレビでもおなじみの国語学者、金田一秀穂先生をお招きして文化講演会が行われた。先生は「心地よい日本語」という演題で、普段私たちが何気なく使っている言葉を例に、日本語の不思議について様々なお話をしてくださった。当日はたくさんのお話も来場され、先生が質問を投げかけられるたびに体育館は大いに沸いて、終始興味と好奇心の熱気に包まれた。生徒からは「初めて日本語の魅力に気付くことができた。」



「考えるということの本当の意味を学んだ。」など、知的欲求を満足させられたという感想が多く聞かれた。この素敵な講演会をプレゼントしてくださった第二十七回同窓生の方々に感謝して、学んだことをこれからの日常生活の糧にしていこう。

## 桜島ロードレース

十一月十日(金)、天候にも恵まれ、桜島総合体育館及び桜島溶岩道路にて第五十四回校内ロードレース大会が実施された。男子十km、女子五kmのコースを一・二年生が約一か月の練習の成果を試す日である。

学校行事の精選が求められているこの時代に、今年で五十四回目を数えるロードレース大会が開催されたことは非常に意義深い。鶴丸高校には必要不可欠な行事なのかもしれない。厳しい受験を勝ち抜くためには、自分を信じて一歩ずつ歩を進めることが必要である。受験に向けての三年間が、ロードレース大会に向けて走り始めた約一か月に凝縮されているのではないだろうか。ロードレースは個人戦のように思われがちだが、本来は団体戦の要素が強い。「弱く甘



い自分」に飲み込まれそうな瞬間に仲間ひたむきな姿を見て、もう一度踏ん張ってみようと思いたされる。お互いが刺激を与え合い、高め合い、励ましあうからだ。そして、このような練習を積み重ね大会当日を迎えたいからこそ、スタートラインに立った五百六十五名全員が先走するという素晴らしい大会の結果となったのだろう。

## 三年生を激励する会

十月二十六日、県文化センターで三年生を激励する会が開催された。今年には古典芸能鑑賞の年に当たっており、生徒アンケートの結果、落語鑑賞会を行うことになった。本校第三十八回卒業生で真打ちとして御活躍の桃月庵白酒さん、そして弟子の五街道佐助さんによる落語教室で幕が開き、その後お二人が古典落語の名作「時そば」「井戸の茶碗」を巧みな話術と動作で演じ、会場は笑いの渦に包まれた。



また、落語に加えて今回は太神楽の鏡味仙志郎さんの曲芸も上演された。和傘や鞠、湯飲みといった身近な物品を使つての曲芸に、場内は感嘆と喝采で沸き返った。鑑賞後は一・二年生から三年生へのメッセージを書いた三激カードの贈呈と、それに応え

ての三年生の決意表明があり、最後は一・二年生による「全力少年」の合唱で閉幕した。長い受験勉強の最も苦しい局面に向かう三年生、一・二年生の激励をしっかりと受け止めて、新たな力を得たことだろう。

## 平成十八年度 後期生徒会発足

後期に入り生徒会執行部のメンバーも入れ替わった。新生徒会長には、二年生の前田一勝君が選ばれた。生徒会のメンバーは生徒全員である。皆が自覚し、よりよい生徒会をつくってほしい。

## 感謝の意をこめて

前会長 草木迫 司  
生徒会役員改選の時期にあたり、この半年間を振り返った今、自分は感謝の気持ちで胸がいっぱい。歴史と伝統が脈々と引き継がれているこの鶴丸において、会長としての役目を果たすということは、思った以上に容易なことではなく、無言のうちへのしかかる責任は重く感じられました。しかしその分、自分にとってまたとない機会を多くいただき、多くの貴重な経験をさせていただくことができたのも事実です。自分自身を深く見つめ、考えることができ、このような立場だからこそ味わえる数々の達成感、充実感、喜びを感じることができました。

この半年間、一つの行事が終わるごとに、「お疲れさま。」「楽しかったよ。」「という言葉をもらつたとき、どれだけそれまでの苦労が吹き飛び、どれほどうれしかったことかと思ひます。おかげでしたこともたくさんあつたことかと思ひますが、その度に生徒の皆さんや先生方に御協力を頂き、支えて頂いたことを感謝します。後期から執行部は新メンバーでの活動になりますが、今後とも自主的に活発な生徒会活動を展開してゆけることを願います。

## 耐震工事のお知らせ

耐震・大規模改修工事は耐震壁がほぼ完成、内部の電気配線、給排水配管も順調に進み、天井も仕上がります。トイレ・廊下等が次第にその姿を現しつつあります。そこで、十二月以降の主な工事についてお知らせします。

- ・二階～四階内部左官補修・内装・天井仕上 十二月二十八日
- ・外部左官・金属・塗装工事 十二月十七日
- ・内部床シート張り、壁塗装 十二月二十八日
- ・各階廊下金物取付・壁ボード張 十二月二十八日
- ・屋上ウレタン防水 十二月十日
- ・外壁洗浄、吹き付け塗装 十二月二十八日
- ・渡り廊下(シンデレラ階段含む)
- ・外壁ひび割れ浮き補修・塗装 十九年二月末
- なお、十二月二日(土)は、受電室電源切替工事及び消火栓ボックス取付工事のため全校停電・断水となります。
- 生徒の皆さんは登校禁止です。